



## 印象派の地へ：世界で憧れの旅行先

パリ地方観光協会とノルマンディー地方観光協会は、フランスへの旅のPRとして、印象派の旅の魅力を発信し、地方の魅力を伝えたいと考えています。

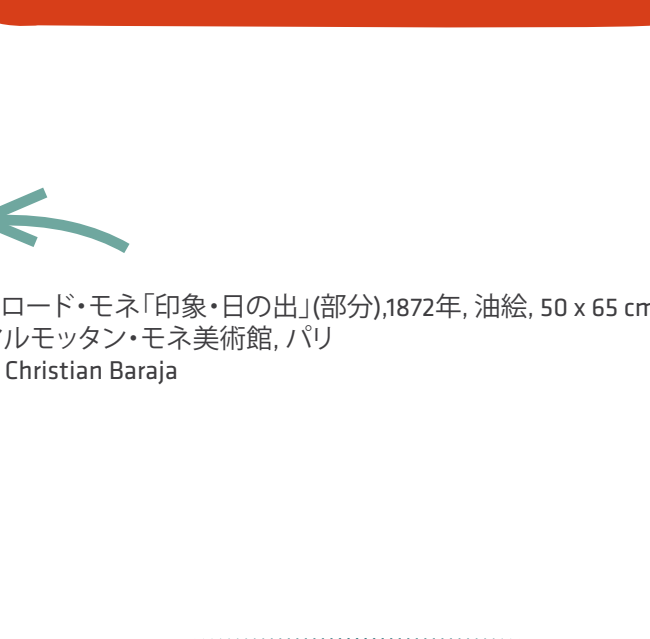
近年、パリ地方、ノルマンディー地方は、「土地、歴史、文化、地理」などを活かしたプロジェクトを推進してきました。歴史的にも地理的にも関係が深い2つの地方は、お互いに協力し、地方という枠組みを超えて、メッセージを発信するという目的で結ばれています。

外務省の呼びかけにより、パリ、イル・ド・フランス地方、オートノルマンディー地方、イル・ド・フランス：印象派の旅」という目的地協約を結びました。

この協約は、自治体と企業が観光推進と地域発展のために協力して活動し、世界各地から訪れる方々の強いご要望に応え、質の高い観光地を目指すという目的で作られました。

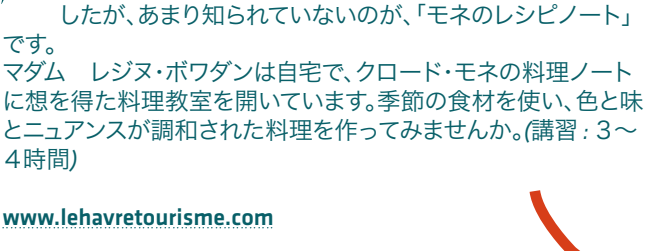
パリのオルセー美術館、マルモッタン・モネ美術館、モンマルトル美術館、オーペール・シュル・オワズ、バルビゾンから、ジベルニー、オンフルール、ルーアン、ルー・アーブル、カンディエツプなどの街でも、印象派にまつわる様々な文化・観光イベントが企画されています。

このプレスセットは、19世紀にこの地から生まれた印象派の様々な魅力をご紹介します。

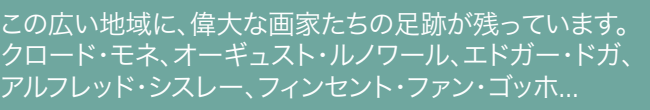
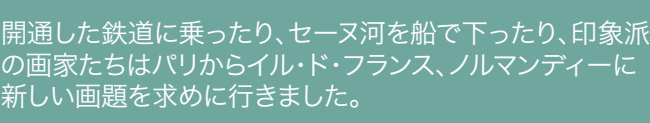
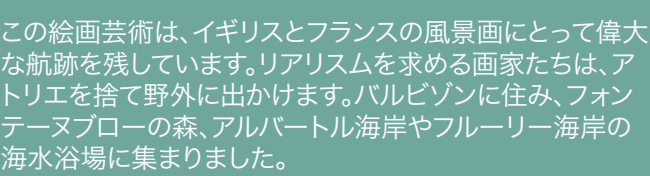
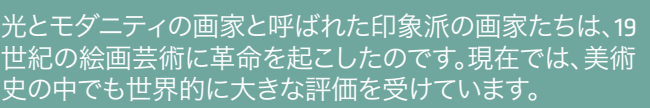
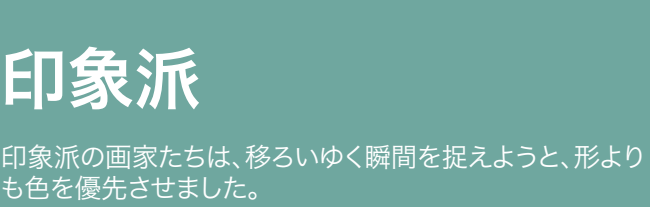
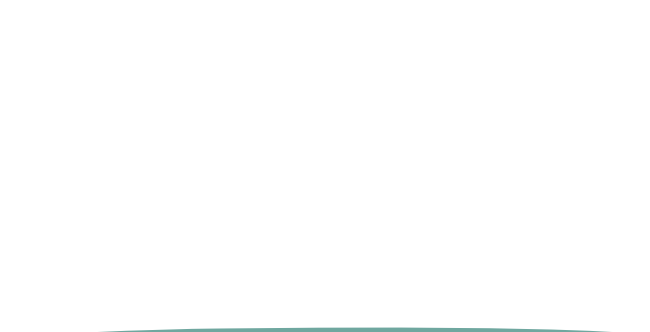


クロード・モネ「印象：日の出」(部分),1872年、油絵、50 x 65 cm, マルモッタン・モネ美術館,パリ

© Christian Baraja



www.lehavretourisme.com



この広い地域に、偉大な画家たちの足跡が残っています。クロード・モネ、オーギュスト・ルノワール、エドガール・ドガ、アルフレッド・シスレー、フィンセント・ファン・ゴッホ...

これらの「幸せな画家たち」がキャンパスを置き、描いた場所に、訪れる人々が思いを馳せるのです。

• 画家たちのゆかりの場所を訪れてみませんか。クロード・モネの家、オルセー美術館、ルーアンのカユポットの家、ピエール・カミーユのMUMA美術館はフランスでの三大印象派コレクションとして知られています。パリのマルモッタン・モネ美術館は、モネのコレクションでは世界一で、かの有名な「印象：日の出」をはじめ、多くの作品が展示されています。ノルマンディーの他の美術館、ヴェルヌ・オンフルール、カヌ、ディエツプ、オンフルールなど、印象派作品がご覧いただけます。

• ノルマンディー 印象派フェスティバルは3年に一度行われる大きなイベントです。

• ジベルニーの印象派美術館、パリのマルモッタン・モネ美術館やオルセー美術館、イェールのカユポットの家では、素晴らしい企画が行われています。

• 徒歩や自転車での旅のコースを提案します。画家たちが愛した場所、キャンパスを置いた場所に絵画パネルが設置されています。

• ノルマンディー 印象派フェスティバルは3年に一度行われる大きなイベントです。

• ジベルニーの印象派美術館、パリのマルモッタン・モネ美術館やオルセー美術館、イェールのカユポットの家では、素晴らしい企画が行われています。

• 徒歩や自転車での旅のコースを提案します。画家たちが愛した場所、キャンパスを置いた場所に絵画パネルが設置されています。

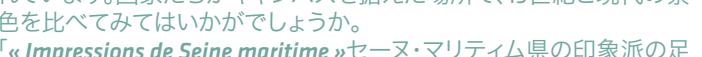
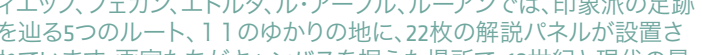
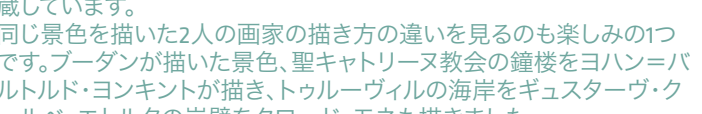
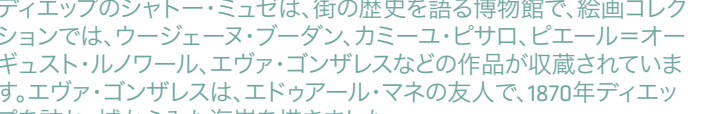
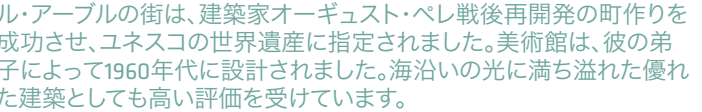
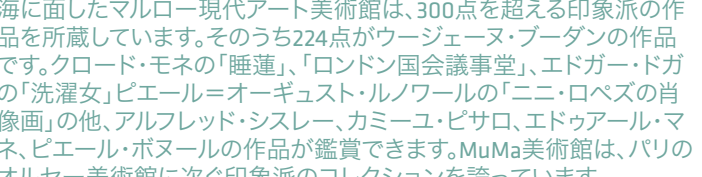
• ノルマンディー 印象派フェスティバルは3年に一度行われる大きなイベントです。

## 印象的なノルマンディーの海岸

印象派の画家たちが描いたのは、セーヌ川だけではなく、鉄道が発達し、ノルマンディーの海岸まで、キャンパスを運び、描くためにやってきました。ディエツプは特に彼らに愛された町でした。ピエール＝オーギュスト・ルノワール、ギュスターヴ・クールベ、クロード・モネ、カミーユ・セザンフが何回も足を運び、英国のアヴァンギャルド派の画家たちに出会います。ピサロは旧港を16点描きました。クロード・モネは、「海と空はこんなにも美しいのだから」とモネが言い時に、野外出かけで描くことを勧めました。クロード・モネは、くり返しのルマンディール海岸に戻ってきます。一人の時もあれば、フレデリック・バジールと一緒に来ることもありました。夏に来たり、冬に来たり、エルトル、フェカン、トゥルーヴィル・シュル・メール、ブルヴィル・シュル・メール、サンタドレシスと目的地も変わりました。ウージェーヌ・ブーダン は特にトゥルーヴィル・シュル・メールの傑作を多く残しています。

ベルト・モリゾは印象派の中で貴重な女性画家で、ジェルバールやフェカンをよく描きました。傑作「ノルマンディーの栗屋根の家」は1865年の作品です。

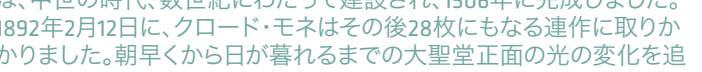
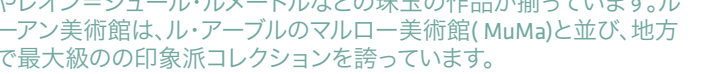
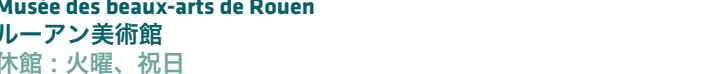
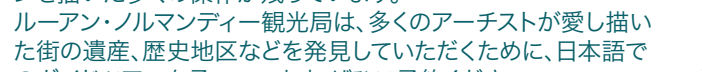
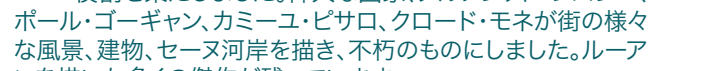
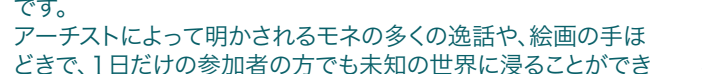
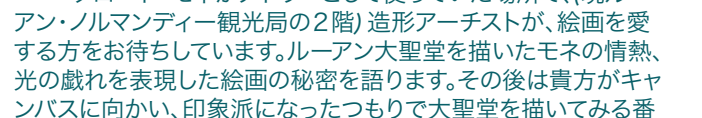
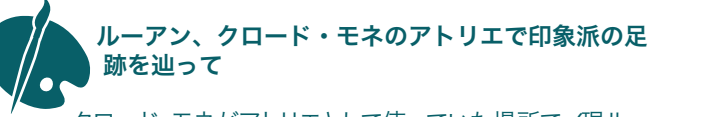
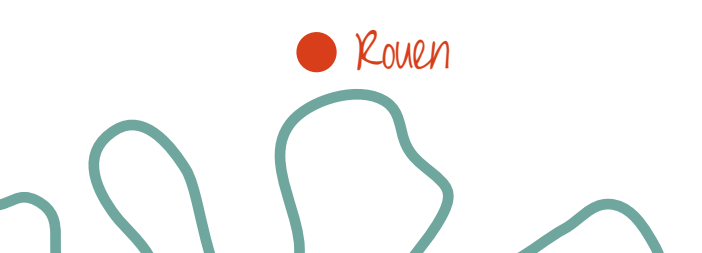
ルー・アーブルはセーヌ川の河口に位置し、画家たちの創造力を刺激する場所となりました。ジャン＝フランソワ・ミレー、ウージェーヌ・ブーダンの他、クロード・モネも青年時代を過ごしました。花に溢れた港町オンフルールは、画家だけではなく、ミュージシャンや小説家なども多く集まってきました。1860年代、サン・シメオン農場の宿には、クロード・モネやその友人ウージェーヌ・ブーダン、ギュスターヴ・クールベ、フレデリック・バジール、ヨハンバルトルド・ヨンギントが集いました。現在は、セーヌ河口を見下す素晴らしい眺めのルレシ&シャトー5つ星ホテルになっています。旧港の周りには、カラフルな木骨組の細い家が立ち並びます。ここでは、ノルマンディーの景色の代表となるほど、多くの画家に描かれました。ウージェーヌ・ブーダンの美術館は、旧礼拝堂の建物に置かれています。ブーダンは19世紀、ノルマンディー地方を愛し、多くの作品を残しています。



## ルーアン・セーヌ渓谷：印象派の故郷

セーヌ川の湾曲部の入り込んだ位置にあるルーアンの街は、古くから芸術家たちを魅了してきました。偉大な画家たち(ジョゼフ・マヨルド＝ウィリアム・ターナー、カミーユ・ピサロ、ポール・ゴーギャン)がセーヌ河岸の風景に惹かれ、キャンパスを置いたのです。

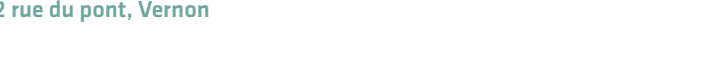
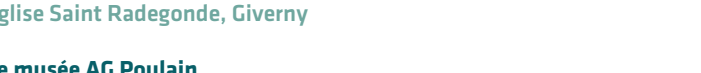
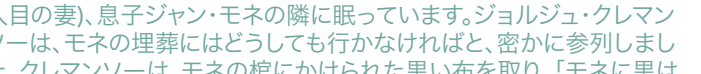
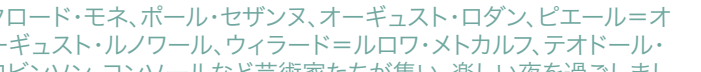
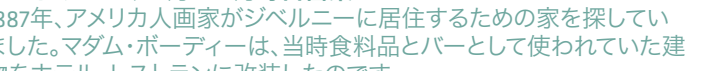
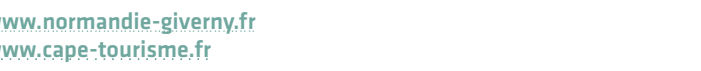
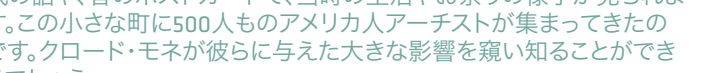
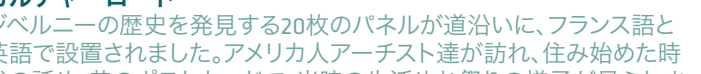
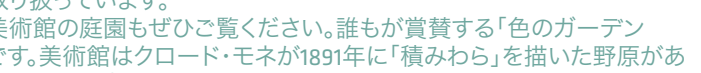
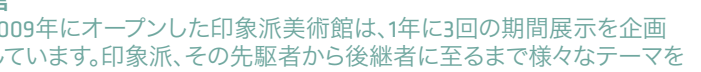
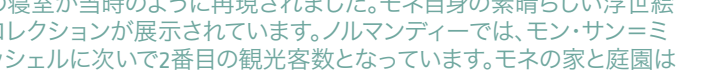
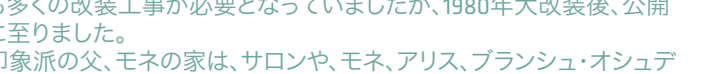
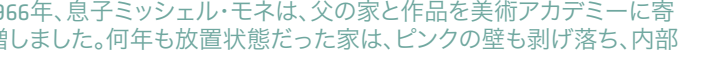
クロード・モネは、1892年ルーアンにやってきます。サント・キャトリヌの丘に上り、街を眺めながら、この街を描く驚くべき大きな可能性を感じました。特に光が入ったのが大聖堂だったのです。モネは大聖堂の正面、現在の観光局の隣に描いた部屋の部屋を借ります。大聖堂を描くには理想のアンクルでした。毎日11時間、同時に9枚ものキャンパスを並べ描きました。モネは、この作品に執着し、「夜中に悪夢を見た。大伽藍が崩れかかってきたのだ。それが青やピンクや黄色に見えた。」と語りました。ルーアン大聖堂は、印象派の父によって世界でも知られた連作となりました。「日の時間や天候によって変化するファサードを28枚描きました。」



## ノルマンディー、ジベルニーとヴェルノンで印象派を巡る旅

1883年、当時ヴェトロワイに住んでいたクロード・モネは、ヴェルノンからガスニーへ行く電車で乗りました。窓からジベルニーの景色が天国の片隅のように見えました。モネは、「これほど美しいところは他に見つけられないだろう。」とこの地に一目惚れしたのです。

まずは借家として、1890年に購入したピンクの壁で知られたこの家で、モネは庭を作り、水を引き池を作り、睡蓮を育てました。クロード・モネは、このジベルニーで43年間生活し、喜びや悲しみを感じ、病氣や家族の死にも苦しむこともありました。ジョルジュ・クレマンソーとの友情を育み、睡蓮の連作の成功も目撃しています。ジベルニーはまた、モネが日本の芸術を心から愛していたところを私たちに教えてくれる場所でもあります。北河や広重、歌麿などの素戔嗚尊のコレクションが鑑賞され、水、土の底では東洋の植物が生育し、日本橋が架けられています。



## オーペール・シュル・オワズ ヴァン・ゴッホの足跡を訪ねて

ファン・ゴッホは、「オーペールは、驚くほどの美しさだと弟テオの死の手紙に書いている。オーペール、カミーユ・ピサロ、フィンセント・ファン・ゴッホは、1890年、隔離病棟にいた南フランスから移り住みました。ガッシュ医師がゴッホの身元受け入れようとした。

この家で、モネは庭を作り、水を引き池を作り、睡蓮を育てました。クロード・モネは、このジベルニーで43年間生活し、喜びや悲しみを感じ、病氣や家族の死にも苦しむこともありました。ジョルジュ・クレマンソーとの友情を育み、睡蓮の連作の成功も目撃しています。ジベルニーはまた、モネが日本の芸術を心から愛していたところを私たちに教えてくれる場所でもあります。北河や広重、歌麿などの素戔嗚尊のコレクションが鑑賞され、水、土の底では東洋の植物が生育し、日本橋が架けられています。

まずは借家として、1890年に購入したピンクの壁で知られたこの家で、モネは庭を作り、水を引き池を作り、睡蓮を育てました。クロード・モネは、このジベルニーで43年間生活し、喜びや悲しみを感じ、病氣や家族の死にも苦しむこともありました。ジョルジュ・クレマンソーとの友情を育み、睡蓮の連作の成功も目撃しています。ジベルニーはまた、モネが日本の芸術を心から愛していたところを私たちに教えてくれる場所でもあります。北河や広重、歌麿などの素戔嗚尊のコレクションが鑑賞され、水、土の底では東洋の植物が生育し、日本橋が架けられています。

この家で、モネは庭を作り、水を引き池を作り、睡蓮を育てました。クロード・モネは、このジベルニーで43年間生活し、喜びや悲しみを感じ、病氣や家族の死にも苦しむこともありました。ジョルジュ・クレマンソーとの友情を育み、睡蓮の連作の成功も目撃しています。ジベルニーはまた、モネが日本の芸術を心から愛していたところを私たちに教えてくれる場所でもあります。北河や広重、歌麿などの素戔嗚尊のコレクションが鑑賞され、水、土の底では東洋の植物が生育し、日本橋が架けられています。

まずは借家として、1890年に購入したピンクの壁で知られたこの家で、モネは庭を作り、水を引き池を作り、睡蓮を育てました。クロード・モネは、このジベルニーで43年間生活し、喜びや悲しみを感じ、病氣や家族の死にも苦しむこともありました。ジョルジュ・クレマンソーとの友情を育み、睡蓮の連作の成功も目撃しています。ジベルニーはまた、モネが日本の芸術を心から愛していたところを私たちに教えてくれる場所でもあります。北河や広重、歌麿などの素戔嗚尊のコレクションが鑑賞され、水、土の底では東洋の植物が生育し、日本橋が架けられています。

まずは借家として、1890年に購入したピンクの壁で知られたこの家で、モネは庭を作り、水を引き池を作り、睡蓮を育てました。クロード・モネは、このジベルニーで43年間生活し、喜びや悲しみを感じ、病氣や家族の死にも苦しむこともありました。ジョルジュ・クレマンソーとの友情を育み、睡蓮の連作の成功も目撃しています。ジベルニーはまた、モネが日本の芸術を心から愛していたところを私たちに教えてくれる場所でもあります。北河や広重、歌麿などの素戔嗚尊のコレクションが鑑賞され、水、土の底では東洋の植物が生育し、日本橋が架けられています。

まずは借家として、1890年に購入したピンクの壁で知られたこの家で、モネは庭を作り、水を引き池を作り、睡蓮を育てました。クロード・モネは、このジベルニーで43年間生活し、喜びや悲しみを感じ、病氣や家族の死にも苦しむこともありました。ジョルジュ・クレマンソーとの友情を育み、睡蓮の連作の成功も目撃しています。ジベルニーはまた、モネが日本の芸術を心から愛していたところを私たちに教えてくれる場所でもあります。北河や広重、歌麿などの素戔嗚尊のコレクションが鑑賞され、水、土の底では東洋の植物が生育し、日本橋が架けられています。

まずは借家として、1890年に購入したピンクの壁で知られたこの家で、モネは庭を作り、水を引き池を作り、睡蓮を育てました。クロード・モネは、このジベルニーで43年間生活し、喜びや悲しみを感じ、病氣や家族の死にも苦しむこともありました。ジョルジュ・クレマンソーとの友情を育み、睡蓮の連作の成功も目撃しています。ジベルニーはまた、モネが日本の芸術を心から愛していたところを私たちに教えてくれる場所でもあります。北河や広重、歌麿などの素戔嗚尊のコレクションが鑑賞され、水、土の底では東洋の植物が生育し、日本橋が架けられています。

まずは借家として、1890年に購入したピンクの壁で知られたこの家で、モネは庭を作り、水を引き池を作り、睡蓮を育てました。クロード・モネは、このジベルニーで43年間生活し、喜びや悲しみを感じ、病氣や家族の死にも苦しむこともありました。ジョルジュ・クレマンソーとの友情を育み、睡蓮の連作の成功も目撃しています。ジベルニーはまた、モネが日本の芸術を心から愛していたところを私たちに教えてくれる場所でもあります。北河や広重、歌麿などの素戔嗚尊のコレクションが鑑賞され、水、土の底では東洋の植物が生育し、日本橋が架けられています。

まずは借家として、1890年に購入したピンクの壁で知られたこの家で、モネは庭を作り、水を引き池を作り、睡蓮を育てました。クロード・モネは、このジベルニーで43年間生活し、喜びや悲しみを感じ、病氣や家族の死にも苦しむこともありました。ジョルジュ・クレマンソーとの友情を育み、睡蓮の連作の成功も目撃しています。ジベルニーはまた、モネが日本の芸術を心から愛していたところを私たちに教えてくれる場所でもあります。北河や広重、歌麿などの素戔嗚尊のコレクションが鑑賞され、水、土の底では東洋の植物が生育し、日本橋が架けられています。

まずは借家として、1890年に購入したピンクの壁で知られたこの家で、モネは庭を作り、水を引き池を作り、睡蓮を育てました。クロード・モネは、このジベルニーで43年間生活し、喜びや悲しみを感じ、病氣や家族の死にも苦しむこともありました。ジョルジュ・クレマンソーとの友情を育み、睡蓮の連作の成功も目撃しています。ジベルニーはまた、モネが日本の芸術を心から愛していたところを私たちに教えてくれる場所でもあります。北河や広重、歌麿などの素戔嗚尊のコレクションが鑑賞され、水、土の底では東洋の植物が生育し、日本橋が架けられています。

まずは借家として、1890年に購入したピンクの壁で知られたこの家で、モネは庭を作り、水を引き池を作り、睡蓮を育てました。クロード・モネは、このジベルニーで43年間生活し、喜びや悲しみを感じ、病氣や家族の死にも苦しむこともありました。ジョルジュ・クレマンソーとの友情を育み、睡蓮の連作の成功も目撃しています。ジベルニーはまた、モネが日本の芸術を心から愛していたところを私たちに教えてくれる場所でもあります。北河や広重、歌麿などの素戔嗚尊のコレクションが鑑賞され、水、土の底では東洋の植物が生育し、日本橋が架けられています。

まずは借家として、1890年に購入したピンクの壁で知られたこの家で、モネは庭を作り、水を引き池を作り、睡蓮を育てました。クロード・モネは、このジベルニーで43年間生活し、喜びや悲しみを感じ、病氣や家族の死にも苦しむこともありました。ジョルジュ・クレマンソーとの友情を育み、睡蓮の連作の成功も目撃しています。ジベルニーはまた、モネが日本の芸術を心から愛していたところを私たちに教えてくれる場所でもあります。北河や広重、歌麿などの素戔嗚尊のコレクションが鑑賞され、水、土の底では東洋の植物が生育し、日本橋が架けられています。

まずは借家として、1890年に購入したピンクの壁で知られたこの家で、モネは庭を作り、水を引き池を作り、睡蓮を育てました。クロード・モネは、このジベルニーで43年間生活し、喜びや悲しみを感じ、病氣や家族の死にも苦しむこともありました。ジョルジュ・クレマンソーとの友情を育み、睡蓮の連作の成功も目撃しています。ジベルニーはまた、モネが日本の芸術を心から愛していたところを私たちに教えてくれる場所でもあります。北河や広重、歌麿などの素戔嗚尊のコレクションが鑑賞され、水、土の底では東洋の植物が生育し、日本橋が架けられています。

まずは借家として、1890年に購入したピンクの壁で知られたこの家で、モネは庭を作り、水を引き池を作り、睡蓮を育てました。クロード・モネは、このジベルニーで43年間生活し、喜びや悲しみを感じ、病氣や家族の死にも苦しむこともありました。ジョルジュ・クレマンソーとの友情を育み、睡蓮の連作の成功も目撃しています。ジベルニーはまた、モネが日本の芸術を心から愛していたところを私たちに教えてくれる場所でもあります。北河や広重、歌麿などの素戔嗚尊のコレクションが鑑賞され、水、土の底では東洋の植物が生育し、日本橋が架けられています。

まずは借家として、1890年に購入したピンクの壁で知られたこの家で、モネは庭を作り、水を引き池を作り、睡蓮を育てました。クロード・モネは、このジベルニーで43年間生活し、喜びや悲しみを感じ、病氣や家族の死にも苦しむこともありました。ジョルジュ・クレマンソーとの友情を育み、睡蓮の連作の成功も目撃しています。ジベルニーはまた、モネが日本の芸術を心から愛していたところを私たちに教えてくれる場所でもあります。北河や広重、歌麿などの素戔嗚尊のコレクションが鑑賞され、水、土の底では東洋の植物が生育し、日本橋が架けられています。

まずは借家として、1890年に購入したピンクの壁で知られたこの家で、モネは庭を作り、水を引き池を作り、睡蓮を育てました。クロード・モネは、このジベルニーで43年間生活し、喜びや悲しみを感じ、病氣や家族の死にも苦しむこともありました。ジョルジュ・クレマンソーとの友情を育み、睡蓮の連作の成功も目撃しています。ジベルニーはまた、モネが日本の芸術を心から愛していたところを私たちに教えてくれる場所でもあります。北河や広重、歌麿などの素戔嗚尊のコレクションが鑑賞され、水、土の底では東洋の植物が生育し、日本橋が架けられています。

まずは借家として、1890年に購入したピンクの壁で知られたこの家で、モネは庭を作り、水を引き池を作り、睡蓮を育てました。クロード・モネは、このジベルニーで43年間生活し、喜びや悲しみを感じ、病氣や家族の死にも苦しむこともありました。ジョルジュ・クレマンソーとの友情を育み、睡蓮の連作の成功も目撃しています。ジベルニーはまた、モネが日本の芸術を心から愛していたところを私たちに教えてくれる場所でもあります。北河や広重、歌麿などの素戔嗚尊のコレクションが鑑賞され、水、土の底では東洋の植物が生育し、日本橋が架けられています。

まずは借家として、1890年に購入したピンクの壁で知られたこの家で、モネは庭を作り、水を引き池を作り、睡蓮を育てました。クロード・モネは、このジベルニーで43年間生活し、喜びや悲しみを感じ、病氣や家族の死にも苦しむこともありました。ジョルジュ・クレマンソーとの友情を育み、睡蓮の連作の成功も目撃しています。ジベルニーはまた、モネが日本の芸術を心から愛していたところを私たちに教えてくれる場所でもあります。北河や広重、歌麿などの素戔嗚尊のコレクションが鑑賞され、水、土の底では東洋の植物が生育し、日本橋が架けられています。

まずは借家として、1890年に購入したピンクの壁で知られたこの家で、モネは庭を作り、水を引き池を作り、睡蓮を育てました。クロード・モネは、このジベルニーで43年間生活し、喜びや悲しみを感じ、病氣や家族の死にも苦しむこともありました。ジョルジュ・クレマンソーとの友情を育み、睡蓮の連作の成功も目撃しています。ジベルニーはまた、モネが日本の芸術を心から愛していたところを私たちに教えてくれる場所でもあります。北河や広重、歌麿などの素戔嗚尊のコレクションが鑑賞され、水、土の底では東洋の植物が生育し、日本橋が架けられています。

まずは借家として、1890年に購入したピンクの壁で知られたこの家で、モネは庭を作り、水を引き池を作り、睡蓮を育てました。クロード・モネは、このジベルニーで43年間生活し、喜びや悲しみを感じ、病氣や家族の死にも苦しむこともありました。ジョルジュ・クレマンソーとの友情を育み、睡蓮の連作の成功も目撃しています。ジベルニーはまた、モネが日本の芸術を心から愛していたところを私たちに教えてくれる場所でもあります。北河や広重、歌麿などの素戔嗚尊のコレクションが鑑賞され、水、土の底では東洋の植物が生育し、日本橋が架けられています。

まずは借家として、1890年に購入したピンクの壁で知られたこの家で、モネは庭を作り、水を引き池を作り、睡蓮を育てました。クロード・モネは、このジベルニーで43年間生活し、喜びや悲しみを感じ、病氣や家族の死にも苦しむこともありました。ジョルジュ・クレマンソーとの友情を育み、睡蓮の連作の成功も目撃しています。ジベルニーはまた、モネが日本の芸術を心から愛していたところを私たちに教えてくれる場所でもあります。北河や広重、歌麿などの素戔嗚尊のコレクションが鑑賞され、水、土の底では東洋の植物が生育し、日本橋が架けられています。

まずは借家として、1890年に購入したピンクの壁で知られたこの家で、モネは庭を作り、水を引き池を作り、睡蓮を育てました。クロード・モネは、このジベルニーで43年間生活し、喜びや悲しみを感じ、病氣や家族の死にも苦しむこともありました。ジョルジュ・クレマンソーとの友情を育み、睡蓮の連作の成功も目撃しています。ジベルニーはまた、モネが日本の芸術を心から愛していたところを私たちに教えてくれる場所でもあります。北河や広重、歌麿などの素戔嗚尊のコレクションが鑑賞され、水、土の底では東洋の植物が生育し、日本橋が架けられています。

まずは借家として、1890年に購入したピンクの壁で知られたこの家で、モネは庭を作り、水を引き池を作り、睡蓮を育てました。クロード・モネは、このジベルニーで43年間生活し、喜びや悲しみを感じ、病氣や家族の死にも苦しむこともありました。ジョルジュ・クレマンソーとの友情を育み、睡蓮の連作の成功も目撃しています。ジベルニーはまた、モネが日本の芸術を心から愛していたところを私たちに教えてくれる場所でもあります。北河や広重、歌麿などの素戔嗚尊のコレクションが鑑賞され、水、土の底では東洋の植物が生育し、日本橋が架けられています。

まずは借家として、1890年に購入したピンクの壁で知られたこの家で、モネは庭を作り、水を引き池を作り、睡蓮を育てました。クロード・モネは、このジベルニーで43年間生活し、喜びや悲しみを感じ、病氣や家族の死にも苦しむこともありました。ジョルジュ・クレマンソーとの友情を育み、睡蓮の連作の成功も目撃しています。ジベルニーはまた、モネが日本の芸術を心から愛していたところを私たちに教えてくれる場所でもあります。北河や広重、歌麿などの素戔嗚尊のコレクションが鑑賞され、水、土の底では東洋の植物が生育し、日本橋が架けられています。

まずは借家として、1890年に購入したピンクの壁で知られたこの家で、モネは庭を作り、水を引き池を作り、睡蓮を育てました。クロード・モネは、このジベルニーで43年間生活し、喜びや悲しみを感じ、病氣や家族の死にも苦しむこともありました。ジョルジュ・クレマンソーとの友情を育み、睡蓮の連作の成功も目撃しています。ジベルニーはまた、モネが日本の芸術を心から愛していたところを私たちに教えてくれる場所でもあります。北河や広重、歌麿などの素戔嗚尊のコレクションが鑑賞され、水、土の底では東洋の植物が生育し、日本橋が架けられています。

まずは借家として、1890年に購入したピンクの壁で知られたこの家で、モネは庭を作り、水を引き池を作り、睡蓮を育てました。クロード・モネは、このジベルニーで43年間生活し、喜びや悲しみを感じ、病氣や家族の死にも苦しむこともありました。ジョルジュ・クレマンソーとの友情を育み、睡蓮の連作の成功も目撃しています。ジベルニーはまた、モネが日本の芸術を心から愛していたところを私たちに教えてくれる場所でもあります。北河や広重、歌麿などの素戔嗚尊のコレクションが鑑賞され、水、土の底では東洋の植物が生育し、日本橋が架けられています。

まずは借家として、1890年に購入したピンクの壁で知られたこの家で、モネは庭を作り、水を引き池を作り、睡蓮を育てました。クロード・モネは、このジベルニーで43年間生活し、喜びや悲しみを感じ、病氣や家族の死にも苦しむこともありました。ジョルジュ・クレマンソーとの友情を育み、睡蓮の連作の成功も目撃しています。ジベルニーはまた、モネが日本の芸術を心から愛していたところを私たちに教えてくれる場所でもあります。北河や広重、歌麿などの素戔嗚尊のコレクションが鑑賞され、水、土の底では東洋の植物が生育し、日本橋が架けられています。

まずは借家として、1890年に購入したピンクの壁で知られたこの家で、モネは庭を作り、水を引き池を作り、睡蓮を育てました。クロード・モネは、このジベルニーで43年間生活し、喜びや悲しみを感じ、病氣や家族の死にも苦しむこともありました。ジョルジュ・クレマンソーとの友情を育み、睡蓮の連作の成功も目撃しています。ジベルニーはまた、モネが日本の芸術を心から愛していたところを私たちに教えてくれる場所でもあります。北河や広重、歌麿などの素戔嗚尊のコレクションが鑑賞され、水、土の底では東洋の植物が生育し、日本橋が架けられています。

まずは借家として、1890年に購入したピンクの壁で知られたこの家で、モネは庭を作り、水を引き池を作り、睡蓮を育てました。クロード・モネは、このジベルニーで43年間生活し、喜びや悲しみを感じ、病氣や家族の死にも苦しむこともありました。ジョルジュ・クレマンソーとの友情を育み、睡蓮の連作の成功も目撃しています。ジベルニーはまた、モネが日本の芸術を心から愛していたところを私たちに教えてくれる場所でもあります。北河や広重、歌麿などの素戔嗚尊のコレクションが鑑賞され、水、土の底では東洋の植物が生育し、日本橋が架けられています。

まずは借家として、1890年に購入したピンクの壁で知られたこの家で、モネは庭を作り、水を引き池を作り、睡蓮を育てました。クロード・モネは、このジベルニーで43年間生活し、喜びや悲しみを感じ、病氣や家族の死にも苦しむこともありました。ジョルジュ・クレマンソーとの友情を育み、睡蓮の連作の成功も目撃しています。ジベルニーはまた、モネが日本の芸術を心から愛していたところを私たちに教えてくれる場所でもあります。北河や広重、歌麿などの素戔嗚尊のコレクションが鑑賞され、水、土の底では東洋の植物が生育し、日本橋が架けられています。



## 2015年、2016年に開催される主要な印象派派展

### MUSÉE D'ORSAY オルセー美術館

**Pierre Bonnard, peindre l'Arcadie**
**「ピエール・ボナール アркаディアを描く」展**
2015. 3/17〜7/19

オルセー美術館で、ピエール・ボナールの全創作時代を通した回顧展が行われます。

ボナールは、いろいろな様式で作品を制作する中、装飾的な美を追求し、鋭い観察力とユーモアを反映させた日常性の高い画題を描き、独自の表現を確立しました。サイズも様々で、肖像画から静物画、親密なシーンからのどかな田舎の光景、近代化された街から古い街の風景、ボナールの作品は彼の直観的で繊細な感性に溢れています。鮮やかに、明るい彼の色彩は、モダンアートの主要要素であり、アルカディア派の流れを汲んでいます。

### MUSÉE MARMOTTAN MONET マルモッタン・モネ美術館

**La toilette, naissance de l'intime**
**「身だしなみと親密性概念の誕生」**
2015. 2/12〜 7/5

マルモッタン・モネ美術館は、「身だしなみと親密性概念の誕生」といってかつてないテーマで特別展を企画しました。15世紀から現代までのアーチストがこのテーマで、清潔、空間、所作などを様々な描いた作品が集められました。これまで扱われることのないテーマですが、オリジナルかつ受け入れやすい題材です。観て耳たんと見られる日常生活を反映する作品が多く、鑑賞するうちに、意外に奥深いテーマであることに驚くことでしょう。多くの有名な美術館や、国内外のコレクションが、この企画に強い興味を抱き、賛同し、作品の貸出に応じてくれました。制作されて以来、未発表初公開の作品もあります。100点ほどの絵画、彫刻、版画、写真、連続写真(クロノフォトグラフィ)などが鑑賞でき、注目度の高い展示会です。

デュレールの版画シリーズから始まり、フリマティツォ、クラウエなどフロンテマブローレの絵画、ジョルジュ・ド・ラトゥールの「産をとる女」、フランソワ・ブーシェが描いた、アンシャン・レージュ(旧体制)の時代ヨーロッパでの身だしなみの場所と大きさを見ることができるといふ作品などもご覧いただけます。展示の2部の作品で、19世紀になり、衛生の手帳や道具が大きく変化した様子ご理解できるでしょう。浴室が作られるようになり、その用途も増えました。水に濡れた空間で マネやベルト・モリゾ、ドガ、トゥールーズ・ロートレックの画家たちが、それまで描かれることのなかった女性の浴槽や桶で顔や体を洗う様子が画題となりました。しぐさが変わり、閉ざされた空間が完全な親密性を生み、自分を飾る様子を描くことで、親密性とモダニティの奥深い印象が表現されています。最終章は、見たことがあるようにで意表をつく、モダンで機能的な浴室のイメージに驚くことでしょう。ピエール・ボナールの作品のごく「我々に許された場所は、他人の視点や街の騒音をから離れたところにあり、自分自身をくつろぎと夢の世界に連れて行くことができる」ことでしょう。

### Villa Flora. Les temps enchantés. Manet, Renoir, Cézanne, Van Gogh, Bonnard, Vuillard, Vallotton, Matisse...

**グイラ・ボナール 「enchanted temps」展**
マネ、ルノワール、セザンヌ、ファン・ゴッホ、ピエール・ポントゥーヴ、ヴァロントヌ、マチス他…
ハーンローザー – ビュラー-個人コレクションから
2015. 9/10〜2016.2/7

マルモッタン・モネ美術館は、元々がコレクションナーによって作られていたもので、今もプライベートコレクションからの傑作を公開するという役割を果たしています。今回、ヘディ・アルチエール・ハーンローザー夫婦からの作品が主要となっています。チュエリツヒから近いウィンターールの街に、1906年から1936年、このスイス人夫婦は自宅のグイラ・フロラに飾る作品を収集しました。マルモッタン・モネ美術館はフランスで初めてこのコレクションを展示することができました。80点近くの傑作、ボナール、ヴァロントヌ、グイラ・ボナール、ファン・ゴッホ、セザンヌ、ルノワールからマチス、マンギャン、マルクなどか、スイスを離れ、パリやポーランド、マルモッタンのお屋敷に展示されます。この期間展示で、ハーンローザー-ビュラー-コレクションの珠玉の作品をぜひご覧ください。

### « L'Enfance de l'art » 「子供のアート」

フランス絵画史において昔から「子供」というテーマは多く描かれてきました。時代を経て、表現方法も社会や様々な絵画様式の影響によって変遷してきました。マルモッタン・モネ美術館では2016年の企画展で、造形学的、人類学的な変遷に伴い広がった子供の絵画の役割への考察を分析し、紹介したいと考えています。

16世紀から20世紀に渡る長い絵画史の中で、聖子の聖父からの流し、王族、貴族、ブルジョアの子供たちの公式で儀式はった表現と、貧しい子供たちがリアリズム的に演じられる表現が現れてきた多くの絵画との対比、こういった表現方法がどのように続き、重なり、混ざり合ってきたのかを、作品を通して捉えることができますように構成されています。また、絵画の主題、対象として、もっと大きくとらえると、子供の表現は、ただのモチベーションを超えたものであることが理解できるでしょう。カクロフには様々な分野の専門家を解説しています。監修のジック・ヴェリは、美術史家、IPU(第1大学の近代史教授で、子供に関する多くの出版をしています。

### PROPRIÉTÉ CAILLEBOTTE カユボットの家

**Les Rouat, de l'impressionnisme au réalisme magique**
**「ルアル家、印象派から神秘のリアリズムへ」**
2015. 3/28〜7/5

この展示会は、ルアル家の並外れた絵画を巡る冒険を、多くの人々に紹介する目的で企画されました。3世代によって描かれた130点を越す作品が展示されます。コレクションナー、メッセ、アーティストでもあったルアル家の人々は、コロエの弟子だったアンリルアル(1833-1912)、その息子で、ドガの弟子、ジュリアー・マネ(ベルト・モリゾの娘)の夫アーネスト(1874-1942)、アンリルアルの孫オーギュスタンルアル(1907-1997)は1930年代のモダニスト・モリストドの友でした。この人間関係の伝記的な回顧展は初企画です。油絵、水彩、アッサン、厚紙、ペンペラ、リトグラフ、写真等は、オルセー美術館、マルモッタン・モネ美術館、30年代博物館などの公共コレクションや、個人コレクションから来ています。アンリルアルの30点ほどの作品は、風景画、特に木を描いた作品が多く、その他愛する家族を描いた美しい肖像画も含まれています。アーネストルアルの30点ほどの作品は多く肖像画で、弟ウージェーヌルアルで、友人ポール・ヴァリエーを描いた傑作があります。オーギュストルアルは印象派と離れ、独自の世界を創造しました。風景画、肖像画、静物画など43点が展示されています。

### MUSÉE JACQUEMART ANDRÉ ジャックマール・アンドレ美術館

Monet, Renoir, Pissaro, Boudin, Gauguin... en Normandie
L'atelier en plein air
ノルマンディーでのモネ、ルノワール、ピサロ、ブーダン、ゴッホなど「屋外のアトリエ」
2016. 3/18〜7/25

19世紀に、新しい絵画のジャンルが現われました。野外で描く風景画です。この絵画革命により、ノルマンディー地方は「世紀もの嵐、アヴァンギャルド画家や印象派の画家たちの最も愛する最先となりました。ノルマンディーは、画家たちを惹きつける魅力に溢れています。風景の美しさと多様性、様々な様式の建築遺産、海水浴の流行、当時の大芸術街都ロンドン、パリからのアクセスの良さなどです。ノルマンディーの各地は印象派画家の愛する野外アトリエとなり、才能を開花させ、また進化させました。この展示会では、ノルマンディーが印象派の絵画運動の誕生に大きく役割を果たしたと、フランスと英國の風景画家たちとの交友を通して自然派が発達したこと、サン・ジメオン農場での出会いなども紹介しています。歴史的アプローチから地理的アプローチまで、ノルマンディーの光が印象派の偉大な画家たちを惹きつける力を持ったことを、様々な角度から感じられる展示会となることでしょう。

### AUVERS-SUR-OISE オーペール・シュル・オウズ

**Saison culturelle 2015 Sur les pas de Van Gogh**
**「2015年文化イベント ファンゴッホの足跡を訪ねる」**
2015. 4/16〜9/20
**www.surlespasdevanoggh.eu**

2015年は、フィンセント＝ファン・ゴッホ没後125年(1890年7月29日没)を記念して、ヨーロッパ各地で展示会、イベントが行われています。「アムステルダム足跡を訪ねて」というテーマで、オーペール・シュル・オウズでは、パトリシジョン・ウーリス・ボード(パリ地方観光協会)は、イベントを企画しています。オーペール城で「The Gogh Experience」、ガッシュ医師の家で、「出版と画商のグズビル ジェロームからファン・ゴッホ兄弟へ(4/16〜7/5)、ドービーニ美術館で「フィンセント・ファンゴッホ、あまね視点から」ミニル、風景、ピアノ」、アブサン博物館で、「映画の中のアブサン」ファン・ゴッホ、ルノワール、ココボウ」などの企画展が開催されます。オーペール・シュル・オウズは、町全体が「博物館」です。ゴッホが最後に住んだ家、ラワー亭が当時のまま残り、内部見学できます。

## MUSÉE DES IMPRESSIONNISMES GIVERNY ジベルニー印象派美術館

1906年、スペイン画家ホアン・ソロージャはパリ、ジョルジュ・ブチのアートギャラリーで初の個展を開きます。ジョルジュ・ブチは当時印象派画家の主要な奨励者の人でした。この展覧会は成功を収め、ソロージャは国際的な名声を得ました。光の効果の表現から印象派画家の1人としてされています。19世紀後半の1/2で、どのように独創的革新なスタイルを確立していったのが、これらの作品を通して理解していただけるでしょう。

100点あまりの絵画、うち40点程の粗糧、風景画、肖像画、彼の名声を博した海辺を描いた作品などが展示されます。この展示会は、ミュンヘンのホボ文化財団(Kunsthalle der-Hypo Kulturstr.)とマドリートのソロージャ美術館(Museo Sorolla)の協力で企画されました。

### MUSÉE DES BEAUX-ARTS DE CAEN カン美術館

« Frits Thaulow (1847-1906), paysagiste par nature »
**「フリッツ・タウロウ、生まれるながらの風景画家」**
2016. 4/16〜9/26

フリッツ・タウロウは、ルウエー人の画家で、エドヴァルド・ムンクの従兄、ポール・ゴーギャンの義弟です。彼は1874年初の印象派展が行われた年に、パリを訪れ、クロード・モネによって導かれた絵画革命を目の当たりにします。その後独自のスタイルを確立し、野外の画家、「大気」を描いた画家として頭角を現します。エゴジカルかつヒューマニストの視点から描いた作品は、程々成功を収めることとなります。

カン美術館は、西洋近代風景画の歴史の中で大きな影響を与えた印象派、後期印象派の時代にフランスで活躍した知られざるルウエー画家の軌跡を紹介します。この回顧展では、自然を詩的に表現した画家の、ヨーロッパやアメリカでの作品が集められました。モネが1895年ノルウェーに旅行したように、同時代の外国の芸術家の才能にも敏感な目向け影響を互え合っていたのです。

第3回となる2015年のフェスティバルのテーマは「印象派による肖像画」。人間性の核心に迫るテーマで、印象派を別の角度から見ると好機となることでしょう。

印象派の画家たちは肖像画に新風を巻き起こしました。ルノワールは婦人と共に若い娘たちの優美な表情を描くことを好み、ドガは婦人帽子の赤り子や洗濯女、ピサロは農家の娘を題材にしました。

印象派の手にやり、対象が女性であれ男性であれ、肖像画が近代絵画や写真芸術へとつながる現代絵画の流れの中で大きな位置を占めるようになったのです。

### MUSÉE EUGÈNE BOUDIN À HONFLEUR オンフルール ウージェーヌ・ブーダン美術館

« Etre jeune au temps des impressionnistes (1860-1910) »
**「印象派の時代に生きた若者たち」**
2016. 6/25〜10/3

この展示会では、肖像画から風俗画まで、若さをテーマにした作品が集められました。母の喪の中、未来の配偶者まで、1860年から1910年に描かれた様々な画題、特にノルマンディー地方に関する作品が並びます。当時、それ以前の伝統表現がありました。18世紀の継承、華々しい肖像画が神話や聖書のヒーローをモデルに描かれました。そこに新しい自然主義の美が現われ、子供や若者が様々な角度から描かれるようになります。この2つの極端に違った表現の時代に、表現と美意識について考え直す機会を与えたのが印象派だったのです。

### MUMA – MUSÉE D'ART MODERNE ANDRÉ MALRAUX, LE HAVRE

**MUMA – ル・アーブル アンドレ・マルロー現代アート美術館**
**« Eugène Boudin, l'atelier de la lumière**
**「ウージェーヌ・ブーダン 光のアトリエ」**
2016. 4/16〜9/26

ウージェーヌ・ブーダンは、人生を通して、手紙やメモ、日記、短い自伝まで、書くことを好みました。それらを通して、ブーダンの人となり、他の画家や画商、コレクターとの関係、彼の仕事の様子や芸術への渴望などを窺い知ることができます。この展示会では、印象派の先駆者と言われるブーダンの書き残した文章からその作品への表現や欲求などの考察を作品を鑑賞しながら理解できるように構成されています。自然の光を捉えようと描き続け、その追求が彼を純粋芸術の境界線まで導きました。ル・アーブル美術館は、ブーダンが芸術家として歩んだ道を通ります。画家たちに幾度も描かれてきたル・アーブルの港の入口、港に面して建てられ美術館は、作品と実在の景色に、自由に目を向けることができるモダンな設計で、セーヌ河口特有な光の中に溶け込んでいます。アーティストがインスタレーションを受けた場で、当美術館の所蔵328点のの選ばれた作品と、個人蔵と世界中の美術館から集められた100点ほどの作品がご覧いただけるまたとない機会です。

### MUSÉE DES BEAUX-ARTS DE ROUEN ルーアン美術館

« Scènes de la vie impressionniste »
**「印象派の日常」**
2016. 4/16〜9/26

印象派とは、野外の画家と言われていますが、初期の作品から室内表現も多く、モダンなアーティスト、同時代に出来た新しい社交の場所などを描くことも好みました。こういった場所を描くのも、アトリエを出る機会であり、産業革命や変わりゆく社会、文化の影響で、家族的な世界や人々の交流が大きく変化するこれに対する新しい視点が見られるという利点がありました。この展示会では、フランスの社会性や家族性の歴史的観点からも興味深い構成されています。

100点余りの絵画(エドヴァール・マネ、クロード・モネ、ピエール＝オーギュストルノワール、ポール・セザンヌ、エドガートガ、ギュスターヴ・カユボット、ファンタン・ラトゥール、ベルト・モリゾ、マリー・カサット他)、彫刻、写真、手紙も合わせてご覧いただき、偉大な画家たちの私生活の世界が垣間見える作品が集められています。ルーアン美術館は、フランスの公共コレクションの中でも、絵画、彫刻、テッサン、様々な様式のアートオブジェなど、時代々15世紀から現代まで、屈指の傑作が揃っています。

### MUSÉE DES IMPRESSIONNISMES GIVERNY ジベルニー印象派美術館

« Gustave Caillebotte, peintre et jardinier »
**「ギュスターヴ・カユボット、画家、庭師」**
2016. 3/24〜7/3

長くマチュア画家、コレクションナー、印象派画家のセザンと言われてきたギュスターヴ・カユボットは、現在では印象派の主要グループの1人として認められています。オスマンによって改造されたパリを独特の切り口で描いたことでも有名ですが、庭園から想起した作品にも力を注ぎました。

100点ほどの絵画、テッサン、彫刻が集められ、オスマンのパリからピエール・セーヌ川沿いの小さなギュスターヴの街、彼の隣、クロード・モネの敷地など、カユボットの芸術に近づけます。この展示会はマドリートのティッセン＝ボルネミッサ美術館との協力で企画されました。

## パリ地方の観光に関する統計(2014年)

パリ地方は、現在年間4600万人が訪れる世界一の観光地になっています。この地域では、50万人の雇用と21億ユーロの経済効果があるとされています。

-パリ地方のホテルの外国人来場者数 1570万人
-パリ地方のホテルの外国人宿泊数 3830万
-パリ地方イル・ド・フランス、ホテルの日本人来場者数 70万6000人
-パリ地方の日本人宿泊数 168万6000

**パリ地方の日本人観光客のプロフィール**
-43.0% ヒーター
-57.0% 初めての訪問
-滞在期間：平均1.5泊
-人気スポット「Top 5」：ルーブル美術館、エッフェル塔、凱旋門、パリ・ノートル・ダム大聖堂、オルセー美術館
-人気アクティビティ「Top 5」：美術館・博物館巡り、街歩き、ショッピング、ガイトゥア、ガストロノミー、テマパーク来館
-88.6%の方が旅行後、周囲の人たちへのパリの旅をおすすめしています。

フェスティバルは若者男女問わず、誰もが楽しめる文化イベントです。印象派発祥の地において制作された作品に触れ、素晴らしい史跡や名所を訪れることのできる絶好の機会です。

フェスティバルは若者男女問わず、誰もが楽しめる文化イベントです。印象派発祥の地において制作された作品に触れ、素晴らしい史跡や名所を訪れることのできる絶好の機会です。

フリッツ・タウロウは、ルウエー人の画家で、エドヴァルド・ムンクの従兄、ポール・ゴーギャンの義弟です。彼は1874年初の印象派展が行われた年に、パリを訪れ、クロード・モネによって導かれた絵画革命を目の当たりにします。その後独自のスタイルを確立し、野外の画家、「大気」を描いた画家として頭角を現します。エゴジカルかつヒューマニストの視点から描いた作品は、程々成功を収めることとなります。

カン美術館は、西洋近代風景画の歴史の中で大きな影響を与えた印象派、後期印象派の時代にフランスで活躍した知られざるルウエー画家の軌跡を紹介します。この回顧展では、自然を詩的に表現した画家の、ヨーロッパやアメリカでの作品が集められました。モネが1895年ノルウェーに旅行したように、同時代の外国の芸術家の才能にも敏感な目向け影響を互え合っていたのです。

### PARIS REGION パリ地域

## パリ・レジオン・ツーリスト・ボード/パリ地方観光協会

…は、パリとイル・ド・フランスへの旅の観光推進、発展を目的とした機関です。旅の情報や手段、観光のプロとのネットワークを使い、お客様に希望に合わせ、新しく質の高い旅のお手伝いをしていきたいと考えています。

**連絡先：**
Catherine BARNIQUIN プレス・イベント担当
cbarnouin@visitsparisregion.com

pro.visitparisregion.com
www.visitsparisregion.com
Facebook: Paris Tourism
Twitter: @VisitParisIstf
Instagram: @paris\_tourisme
Media Library: media.visitparisregion.com

## ノルマンディー地方の観光に関する統計 (2014年)

2014年は、ノルマンディーのホテル業界への日本人観光客数が飛躍的に増加しました。2013年度と比較すると、来場者数+27％、宿泊数+26％となりました。

2014年、モン・サンミッシェル修道院の日本人入場者数は、外国人来場者の中で1位を占め、12万人に上りました。ジベルニーはアメリカ人仅次于2位を占めています。
-ノルマンディーの地方の宿泊施設、商店の外国人来場者数 580万人
2013年度比較+11%
-ノルマンディー地方の宿泊施設での外国人宿泊数 1190万
2013年度比較+2.5%
-ノルマンディー地方の宿泊施設での日本人来場者数 7万 8000人
日本人宿泊数 9万
6400 2013年度比較+26.4%

**ノルマンディーの日本人観光客のプロフィール**
-滞在日数：平均1.2泊
-モン・サン・エミモンジェ：ノルマンディーでの有料施設で1位
120万人来場、日本人観光客は外国人来場者の16％を占めています。
-ジベルニー(クロード・モネの家と庭)では、外国人来場者の2位。2014年4万人弱の方が訪れました。

出典：CRT Paris Ile-de-France(2014年の統計) 飛行場や電車、高速インターで行われたアンケートより。

### PARIS REGION パリ地域

### Normandie ノルマンディー

## ノルマンディー・ツーリスト・ボード/ノルマンディー観光推進局

…は、ノルマンディー地方、フランス、グローバルな観点で、観光産業を推進するという目的を持った機関です。また、観光にまつわるアクティビティの監修の役割も担っています。国とその実務機関オペレーターATOUI France(フランス観光開発機構)との密接な関係を結び、観光産業に携わる企業、協会、アソシエーションとも協力し、観光事業の振興に寄与するというミッションを掲げています

…は、ノルマンディー地方、フランス、グローバルな観点で、観光産業を推進するという目的を持った機関です。また、観光にまつわるアクティビティの監修の役割も担っています。国とその実務機関オペレーターATOUI France(フランス観光開発機構)との密接な関係を結び、観光産業に携わる企業、協会、アソシエーションとも協力し、観光事業の振興に寄与するというミッションを掲げています

**連絡先：**
Jérôme MERCIER PAPIN 観光推進担当責任者
j.mercier-papin@normandie-tourisme.fr

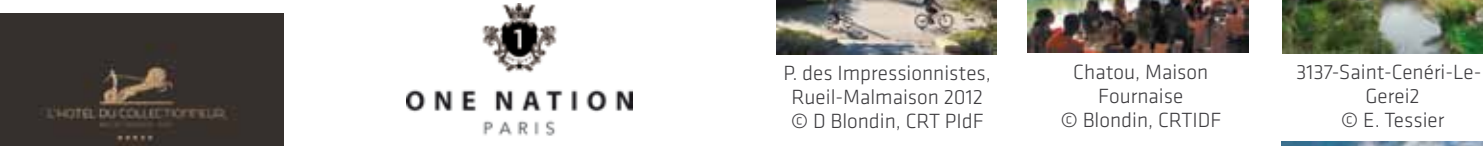
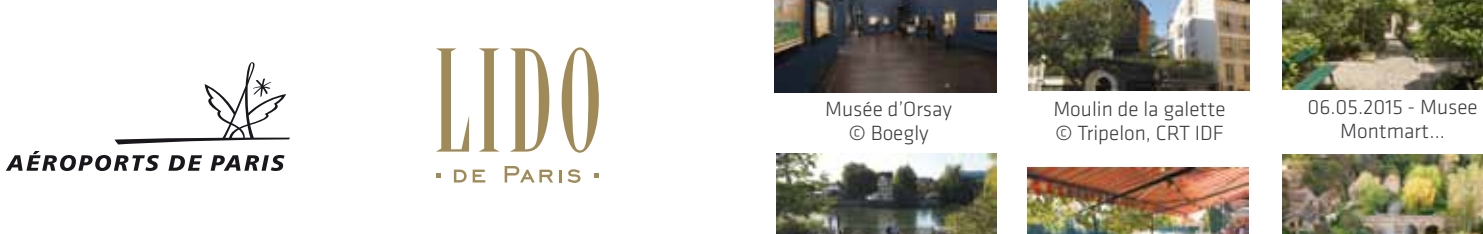
Edouard Valère マーケット担当責任者
evalere@normandie-tourisme.fr

www.normandy-tourism.org
Facebook: normandie.tourisme
Twitter: @normandie
Media Library: mediatheque-crt-normandie.keepeek.com

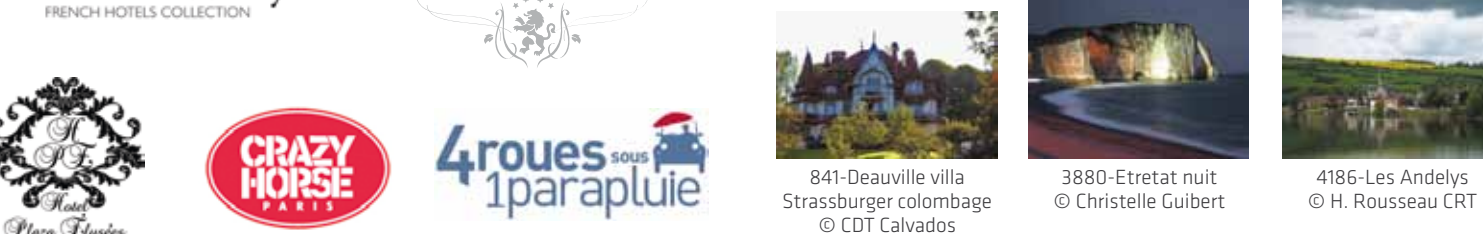
### パートナー



### PARIS Convention and Visitors Bureau



### CENTRE DES MONUMENTS NATIONAUX

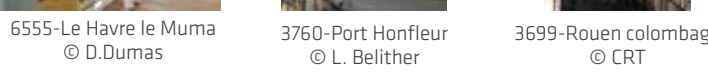
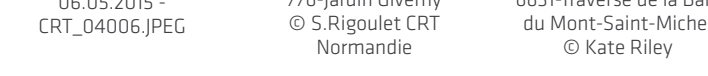
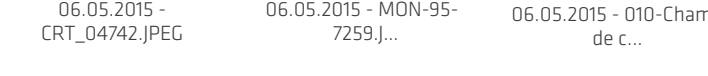
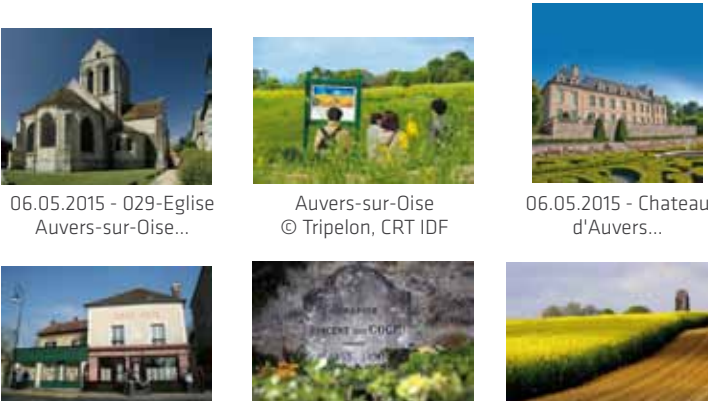


## アトウー・フランス

アトウー・フランス(フランス観光開発機構)は、様々なおもてなし体制や情報をご提供できるよう、皆様のご要望をフランス各地へつなぐお手伝いをいたします。

**連絡先：**
Yumiko MORI 森由美子
presse.jp@atout-france.fr - Tel: +81 3 3582-0994
www.jp.media.rendevousfrance.com

**画像のご使用について**
以下の画像は、パリ地方、ノルマンディー地方の旅行企画、プロモーションに限りご使用していただけます。



### その他の画像はこちら：

media.visitparisregion.com
mediatheque-crt-normandie.keepeek.com

